

編集後記

今号は、「初等教育学科・子ども教育学科紀要」の第2号となります。二つの学科は小学校・幼稚園の教員養成、保育士養成を主軸としていますが、構成メンバーの専門領域は多彩です。教育（pedagogy）の語源であるパイディアは、子どもの養育から一般的な教養に至るまで、幾層もの人間形成全体にかかわる言葉ですが、今回の8本の論文を通観すると、それぞれの専門性が際立ってなおパイディアとしての教育の豊かさが示されているように思います。

さて、「初等教育学科・子ども教育学科紀要」は、論文集であると同時に学科のアーカイブとしての役割も担っています。「初等教育学科紀要」であった頃からの「紀要を見れば、学科のその時々の様子がわかるようにしたい」という編集方針を今も受け継いでいます。その意味で今期のトピックとして記録しておきたいことは、短期大学部専攻科人間教育学専攻が平成18年度末をもってその役割を終えたということでしょう。最終頁に掲載してきた題目一覧も今号で最後となります。人間教育学専攻は平成13年、短大初等教育学科の卒業生が小学校・幼稚園教員の一種免許状を取得できる道を開きたいという願いから開設されたものです。（昨年度の人間社会学部初等教育学科の創設によって、短大の卒業生は3年次に編入して一種免許状を取得することができるようになりました。）5年間の修了者は66人、一人も欠けることなくすべての修了生が、大学評価・学位授与機構の論文審査に合格して教育学士の学位を授与され、教育職員一種免許状を取得して巣立っていきました。今多くの小学校、幼稚園で活躍してくれています。

二つ目のトピックは、この4月より二学科の本拠地が移ったことです。ブリティッシュ・スクール・イン・トウキョウ（BST）が、大学5号館4階に加え3階にも開設されたのに伴い、49年の長い時を過ごした5号館を離れ80年館に移りました。新しい環境のもと学科の将来を冷静に見つめつつ、気持ちも新たに再スタートを切りました。

年度末年度始めの校務に加えて移転作業に追われる中、この第2号紀要が刊行できましたのも、近代文化研究所編集室のいつも変わらぬ緻密なお仕事の支えがあったのでした。ここに改めて感謝いたします。（木間英子）

編集委員 押谷由夫 有村久春

石井正子 木間英子 駒谷真美 平野晶子 松本 淳 横山文樹

☆掲載論文の無断転載を禁じます。

〒154-8533
東京都世田谷区太子堂一ノ七
電話 03 (三四二一) 五三〇〇

発行所 昭和女子大学
近代文化研究所

印刷所 三 秀 舎
編集発行人 竹 田 喜美子
平成十九年五月二十日 印刷
平成十九年六月一日 発行

購読料 一カ年分 一〇〇八〇円
(本体 九六〇〇円)

学 苑 八百号

定 価 八四〇円 (本体八〇〇円)